

キャリアセンターの大黒 光一先生と大野 好美さんの講義
(「徐 誠敏ゼミで考える 2019 年度就職活動ガイダンス」)から学んだもの

2019 年度 3 年次ポジベーションゼミ(徐誠敏ゼミ)

2019.7.19(金)

《加藤綺子ちゃん》

キャリアセンターの方から就活のお話を聞いて、私たちの就活がオリンピックの関係で時期が早まっているために、その分早く動かなければならないという具体的な理由がわかりました。私が第一希望にしている中京銀行さんも、私はプレエントリーを六月にしましたが、六月末にはインターンシップの募集ですら締め切られており、早く動かなければならないということを実感していたところでしたので、乗り遅れないように早めの行動が大切だと改めてわかりました。

また、銀行だけではなく、労働金庫と農協にもインターンシップにエントリーしたので、第一志望でない企業も観てみるということも大切だと感じましたので、しっかりと企業研究を怠らず、質問をいくつか用意して挑みたいと思います。そして、インターンシップで自分ができることを反映させることが出来るよう努めます。

今年の夏休みは、演劇活動と資格取得のための勉強と卒業論文の土台作りを頑張ります。

演劇活動は、8月上旬、9月上旬、9月下旬に本番があり、また11月にも本番を控えており、夏休みはほとんど稽古です。その中で、4つの役を1つも怠らずにやりきることが目標です。あと、体を壊してしまうとすべての舞台に迷惑をかけるので、体調管理も徹底します。

資格は、損保と証券外務員を10月までには取得し、フィナンシャルプランナー3級を1月に取得することが目標なので、夏休みは勉強を必死にやります。どの資格も銀行で働くうえで必要となる資格で、将来がかかっているため、必ずすべて取得します。

卒業論文に関しては、個人事業のカフェのコモディティ化について、スターバックスと見比べて何が足りていないのか、また、個人事業のカフェで長年成功している理由はどこにあるのか、そして長年続けたカフェが高齢化のために閉店してしまっている事例について研究したいなと思っています。

また、もう一つの案として、模倣困難性のある商品の共通点などがあるのかを研究したいです。日本には職人の方がたくさんいますが、質もあって便利で安い商品がある現代では、職人の存在はうすれているのではないかと思います。その中で、模倣困難性があり、売り上げも高く人気がある商品にはどのような特徴があり、模倣困難性のない商品を変えるにはどうしたらいいのかを研究結果として提示できたらと思います。研究題材としては、家電製品を提示します。夏休み中にテーマについて研究し、ほぼ完成まで持っていけるように頑張ります。

《眞下 愛裕ちゃん》

今回のキャリアセンターの話聞いて、改めて今年の夏休みの大切さを感じました。いい椅子は平等に準備されているけれども、早くしないと座れなくなって、就活では残り物に福はないよというお話で、モタモタしてはいいい椅子が無くなってしまうため、その競争に勝つためにも自分に必要なものをしっかりと見極めて、準備をしなくてはならないと思いました。

今年の夏休みは、これからの人生が変わる期間だと感じているので、興味のある業界や業種のインターンシップへ参加したり、改めて調べ自分がやりたいと思っていることと一致しているのか、企業側はどんな人材を求めている自分はそのような人材になれるのかをしっかりと見つけなおしていくことがきわめて大事だと感じました。そして、企画などの仕事に就きたいと考えているため、3年間の中で勉強をした事を生かしたいと思い、マーケティング・ビジネス実務検定の取得をしたいと考えています。そして今も継続して行っている簿記検定 2 級の取得もしたいと考えています。資格は私の中では自分自身の武器だと思っているので、自分の使える武器をこの夏休みを利用して増やしていけたらいいなと思っています。それと同時進行で、卒論で取り扱いたいと思う企業や分野についても決めていきたいと考えています。自分の中で興味のある分野が企業ブランドやマーケティングの部分なので、その部分で上手に経営をしている企業を下調べして、本格的にどのような企業について卒論を書くか夏休み中に決めていき、参考資料の読み込みなどをしていきたいと考えています。自分が本当にやりたいことは何か、また私には何が向いているのかという事をもう一度見つけなおして、これからの人生がより良いものになるように積極的に動いてチャレンジをしていきたいと思っています。

《大倉 真千子ちゃん》

本日キャリアセンターでお話を聞いて、就職活動はとにかく早く動くことが大事だとわかりました。そのために、業界研究や色々な職種のインターンシップに参加して、自分の将来なりたい職業や方向性を早めに決めるべきだと思いました。お話の最後に、就活は椅子取りゲームです！という言葉がありました。大手の企業ほど椅子の数は少なく、早く動かないと他の人に座られてしまう、、、とても分かりやすい表現だと思いました。

履歴書に関しては、読む側が何を感じるのか考えながら書くことが大事だとわかりました。そして文章には結果、理由、具体的なエピソード、結びの文が必要だとわかりました。私は自分を過大評価するクセがあるので客観的に見ることができるように、夏休み中に自分のこれまでのエピソードを書き出して自己分析しそして友人に他己分析をお願いし、文章を書く際に大げさなことを書かないように履歴書を完成させたいです。

《横川 裕也君》

まず一番大きなインパクトを与えられた事柄は私たちの代が置かれている状況の深刻さです。2020年の東京オリンピックが原因で企業が就活の面接や説明会に使うためのホテルが確保できないため、企業が7月の段階で一度就活をストップしてしまう、という問題があります。これの対策のために私たちがしなければいけないことは何か。それはやはり就活のスタートを早くすることです。私は現段階でインターンシップを8個、夏休みに入れました。正直これでもまだ不安です。この不安を解消するためにも「自分の強みやアピールポイント」を明確にしておく作業をしたいと強く思いました。今思う自分の強みは「ディスカッション能力」「プレゼン、パワポ能力」を軸に、この二つを補うための「常に様々な方向にアンテナを張っておくこと」や「疑問や興味を持ったことは全力で深く掘り下げる」ことを意識しながら習慣にしていることだと思います。この夏休みはインターンシップをやみくもにこなすのではなく、さきほどあげた自分の強みを更にのばすことを意識しながら取り組むことで有意義な機会にしたいと思います。また、「ディスカッション能力」「プレゼン、パワポ能力」を自分の強みと言えるようなチャレンジをすることによって説得力をつけていきたいと思います。

《根本 岬君》

私は今までやりたかったボードゲーム関係の仕事がやりたいと考えていて、それをやりたいがために大学に入ったところもあったのですが、最近英語が必要な事や、ボードゲームの知識の薄さなどを見つめなおしたとき、一度諦めたほうがいいとの結論を出してしまって、そこからのことを考えられずに宙ぶらりんの状態が今続いてしまっています。そのためやりたいことなく企業研究に行き詰まってしまっています。インターンシップ説明会に参加しても何も心に響かず、結局どこにも応募していない状況です。キャリア支援講座で、先手で動かなければならないといわれ続けていたのですが、夏から大丈夫とか、今ゼミで忙しいとか、などの適当な理由をつけてどこか逃げたい気持ちが強かったです。また、自分の長所や自分のできることを考えても何も見つからずそれを考えなければならぬ焦りと、思い付きのなさがよりやる気や緊張感を失わせてしまったと感じました。しかし、もう泣き言は言うてはいられない。いち早くやらなければ本当に行きたくないところしかない緊張感と危機感を抱きながら夏を迎えたいと思います。まず手当たり次第に業界研究をし、1dayでもインターンシップにいき、やりたいことを決めなければならぬと感じました。そのために夏休みはインターンシップを重視していきたいと考えています。卒論は合間合間に進めていき、資格の勉強は本当に時間を割くものを選別しなければならないためとりあえず保留にしようと思いました。

《小島 海璃ちゃん》

今回のお話を聞いて、就活において 1 番大事なものは、はやめはやめの行動だと思いました。元々就活に対して焦りを感じていたため、はやめの行動を心がけていたのですが、就職本番まであと 8 ヶ月しかないこと。また、3 月には採用活動を終えてしまっている会社もあること。これらのお話を聞いて、今の行動ペースでは後々絶対に後悔するだろうなという気持ちになりました。お 2 人の話にたくさん出てきていた、働く際になにが大事なのか。という軸が私はまだフワフワしています。この軸をしっかりさせることがまず第一歩で、しっかりさせることで、自分が自分らしくいられる会社をたくさんある中から見つけられて、この会社で絶対に働きたいという気持ちになることで、必死になって就活をすることが出来るかなと思いました。夏休みは主にインターンシップに力を入れたいと考えています。自分に合っている職種や業界などがまだ見つからないので、夏休み中には絞り終えて、出来たら、行きたいと思う会社も見つけられていたらいいなという気持ちで行動していきたいです。資格に関しては、就活中やその後にもずっと役に立つと考えられる秘書検定の勉強と、インターンシップで業界や職種の絞り込みをしつつ、その中で必要だと思う検定を見極めて、取得していこうと考えています。また、遊ぶことも大事だとたくさんの人から聞いたので、真剣な時と楽しむ時とのメリハリをつけて、後から振り返っても充実した夏休みだったと思えるような夏休みにしていきたいです。

《富永 浩太君》

今日はキャリアセンターで就職活動のガイダンスをしてもらいました。この時期にあのような話を聞くことができ良かったなとすごく思いました。僕たちの世代はオリンピックの影響もあり、事実上の就職活動はこの夏から始まります。このことを、データをもとに話してくれたことでとても現実的で危機感を覚えました。

でも、僕の中では将来どういった職についてどのような人生を歩んでいくかというのは頭の中である程度まとめられています。この自分の人生のキャリアを広く見ることで、定年までの人生をどう送るかを考えることが大切だと聞いて、今自分の中でやっていることは間違えてないんだとわかりました。

僕はコミュニケーション能力には自信がありませんでした。でも今日の話聞いて部分的に分けていくと自分のコミュニケーションの強みは意外と見つかるんだということがわかりました。これはコミュニケーションに限らず、他の自分の強みを探す上でもとても使える考え方だと思ったのでこれをしっかりと使って履歴書などを作っていきたいです。

就職活動はイス取りゲームでいい席ほど早く埋まってしまう。これは公務員になろうと思っている自分にも当てはまると思います。早く行動すればそれなりの成果は必ず上げられると思います。今日も話していましたが 1day でもいいからインターンシップに参加した方がいいと聞いてこの夏休みやその先の冬場にかけては僕がなりたい警察官や公務員のインターンシップや企業説明会を聞ける場所は行けるように今から自分で調べて早め

早めの行動をしていきたいです。

《松山 結ちゃん》

就職活動の話をして聞いて、早めに動くことが重要だということを改めて分かりました。印象に残ったことはじっくり取り組めば伸ばせるところがあるというお話です。言葉遣い、口癖、振舞などすぐにその場で直そうとするとそのうちボロが出てきてしまうと思いますが、じっくり取り組むことで、直すことが出来るということも分かり言葉遣い、口癖、振舞は、客観的に考え気づいていきたいです。私は、二重敬語になってしまうことが多々あると思うので本やインターネットで調べながら気を付けたいです。面接はその企業への熱意、意欲が伝われば良いということをよく聞きますが、それでも相手に伝わりやすいように言葉の組み立て方や、言葉遣いなどは今のうちから少しでも改善できるように取り組んでいきたいと思いました。じっくり取り組むことで直せる部分というのは就職活動に関わらず普段の生活の中でも役に立ってくると改めて思ったのでそのことを意識して就職活動を楽しめるものにしていきたいです。就職活動には慣れも必要ということも分かりました。大学の入学式の日初めてパンプスを履いて、帰る頃にはとても痛くて驚いたことをよく覚えています。大学三年生になり、振り返るとインターンシップなどで何回かスーツを着る機会があったため、最初ほど抵抗はなくなりました。面接などにしっかりと集中出来るよう又焦らないように、慣れてないことを減らしていきたいです。また具体的なエピソードで自分らしさが出てくるというお話も印象に残りました。今回お話を聞いて企業研究、自己分析、履歴書の作成、インターンシップへの参加など今からでも出来ることは沢山あるということを知ることが出来、就職活動やるべきことが沢山あるということも言えるため、早めの行動が大切だということが今回のお話で改めて分かりました。

夏休みの計画は、8月の下旬ごろにインターンシップを一応入れているため、8月の上旬は卒業論文に関する論文や書籍を読み、卒業論文の情報収集をしながらインターンシップに行く業界研究、企業研究を進めていき、8月の下旬はインターンシップで学んだことを基に業界研究や自己分析など就職活動に向けて力を入れていきたいです9月頃は予定が今のところ少ないため、就職活動に向けての取り組みは手を止めない程度にやり、卒業論文を進めていきたいです。卒業論文を9月に取り組むのは少し気がかりなので前倒しになるように取り組もうと思います。

《後藤 拓己君》

今日、就活について話を聞くなかで、オリンピックにより時期が早まることや、インターンシップが重要だということなど、今まで何度も聞いたようなことが、今までよりも一層身近に感じられました。これまでもずっと本気で考えているつもりだったのですが、あまりにも大変そうで受け入れたくないという気持ちもあってか半ば他人事のように捉えてしまっていたのだということに気がきました。状況は自分が思っているよりも切迫してい

て、なんならインターンシップなんてもう目と鼻の先のことで、急に焦燥感がこみ上げてきました。大学選びに失敗しているぶん、就活では絶対に後悔しないようにしようという気持ちが強くありつつも、就活というものを脅威だと感じている部分もあって、重い腰を上げるか上げないかぐらいの中腰のような状態だったのが、ようやくしっかりと立ち上がったように感じます。こうして後押ししてくださるキャリアセンターの方々には感謝の念しかありません。ただ、重い腰を上げたところで不安が払拭されるわけではなく、いつ折れるともわからない棒切れの上をなんとか立っているような感覚でいます。こうもメンタルが弱いと、ストレスをなんとか軽減しようとして、「もういいだろう」「自分は頑張った」「一旦休もう」と過剰に保守的になってしまいます。なので、少しでも不安を失くすために、あわよくば就活が楽しみだと思えるように、夏休みの期間を最大限に活用して、自身の価値を高めたいです。そのために、今現在勉強中である簿記検定 2 級を取得できるように問題集を何度も反芻すること、最近興味を持ち始めた IT 業界に於いて必要な基礎知識や資格の勉強、色々な業種のインターンシップに参加して自分に合う業種を見極めることを中心に取り組み、就活が少しでも楽になるように、卒論にも着手していこうと考えています。夏休み後、「見違えたね」と思ってもらえるように頑張ります。

《平尾 友教君》

自分の将来働きたい業種・職種は自分で考えて、自分で悩んで、自分で決める。自分の人生なのだから他人任せで決めてもらうかのような姿勢ではいけない。当たり前のことですが、なかなかはっきり決められていなかった私には改めて考えることもありました。

教育体制や福利厚生がしっかりしているかなど企業を選ぶにあたって重要ですのでこれからインターンシップには積極的に参加し、採用につながるかもしれないため企業やその仕事を知るだけでなく、緊張感も持ちながらありのままの自分らしさを忘れずに挑みたいと思います。東京オリンピックの影響で早め早めに採用したい企業が増えてきていることに対しては、こちらも就活を早め早めに取り掛かろうと思います。採用に当たってはどんなイスがどれだけあるか、どんなイスに座れば自分にとって座り心地がいいのかにも注目したいです。企業らしさと自分らしさがいい形でマッチングするところを見つけたいです。企業や人との運・縁・タイミングもあることはわかっているのでそれを少しでも自分のものにできるように機会を逃さずチャレンジしていきます。頭ではなんとなくわかっているお話ではあったので、とにかく僕の場合は思っていることを行動に移せるかが頑張るところだと感じました。

《森田 一輝君》

今回のゼミで自分の年代のインターンシップがとても重要なんだとわかりました。来年は東京オリンピックがあり、そのため企業は力を入れていきたいので、あまり人事に時間をかけられない、そこでインターンシップがある夏休みで人のある程度決めておくという

事が自分にちょっと焦りを与えました。自分は興味がある企業がとても少なく、インターンシップも夏休みに一社行くぐらいでしたが、興味のない企業のインターンシップも行ってみようかなと思いました。興味がなくてもインターンシップに行けば、その業界に興味湧くかもしれないので、夏休みはどんどんインターンシップに行ってみようかなと思います。そして履歴書で自分の PR は本当に自分の武器のことを書いていいんだと、思いました。自分には空手という武器があるので、その武器を活かしてこれからも就職活動などに使っていきたいと思います。

《笛木 河我君》

今回の感想はインターンシップの必要性について理解が深まりました。自分は今年の夏にインターンシップに行く予定があり、自分の目指す業界以外の業界を多く見ることで本当に今の目指す先が自分に合っているかを見極めたいと思っていますが、インターンシップに行くことにより内定になんらかの影響がある企業が多くあると知り、また内定が解禁される 3 月 1 日には既に内定が決まっているというケースになるためにもインターンシップに行き早めに自分を売り込んでおく必要性についても知ることができました。

正直自分は、インターンシップは卒業に必要な単位を取るためだけにいけば良いと考えていました。自分は高校時代から行きたい企業が決まっており、アルバイトをして結果を出して内定が確実に出るように努力をしてきました。なので、キャリアという概念は無いに等しくなるようになるか、風の吹くまま気の向くままに流されていくのも悪くは無いと思っています。

職業、職種、職務、職位、経歴、進路これだけ(職)の字を並べてもキャリアの狭義的な概念の一部であり、広義的な生涯の生き方なんてものは考えたくもありません。海は広いかもしれませんが狭い沼地でしか生きられない魚もいるのであれば自分は沼地のヌシを目指していきたいと思いました。

《福元 将汰郎君》

私は、今回のキャリアセンターの人の話を聞き、就職活動は 3 月 1 日からではなく、その前に行くインターンシップが重要でインターンシップに参加して企業の方から内定がもらえると言う話がとても印象に残りました。私も早めにインターンシップなどに行き、どんどん意識を持って行動していかなければいけないと思いました。あと、私は企業が 1 番求める事がコミュニケーションという事を聞き、やはりどのような所でもコミュニケーションが 1 番大事な事なんだと思いました。就職活動でも企業に入ったあとでも、人と人とのコミュニケーションは必要な事だと思いました。私もあまりコミュニケーションには自信がないので、今からでもいろいろな所で意識を持って努力していかなければならないと思いました。

今回のキャリアセンターの方々のお話を聞き、就職活動は大変だけど、自分自身のため

にはとても大切な機会だと思うので、積極的に行動していきたいと思いました。あと、今年の夏休みは、ただ遊ぶだけでなく卒業論文を作成したり就活生としての自覚を持っていきたいと思いました。

《名知 慎哉君》

授業聞いて思った事は、早めの行動が大事な事だと改めて感じました。なぜなら、早めに行動しないと、自分にとって不利になってしまうからです。例えば、どうしてもその企業に行きたいと思っても、企業研究や、インターシップや企業説明会を疎かにしてしまうと、入りたいと思っても入りづらくなってしまいますので、早めに情報を入手し、誰よりも早く行動する事が大事な事だと思ったからです。今自分は、行きたい企業があるので、その説明会に応募しましたし、インターシップなどにも参加したいなと思っています。これは、早めな行動に入ると思うので、行動だけで満足せず、勉強もしっかりやり、企業研究し、本当にこの会社でいいのか、自分は本当にこの企業で働きたいのかなど、研究し、就活に望みたいなと思います。

《三輪景虎君》

自分のキャリアを振り返って十分理解してからの就職活動が大事ということがわかった講義でした。理解した上での自分らしさを出しつつ、価値観が合う企業に入ることが一番の幸せではないかと思いました。就活は早く動けば動くほど有利ということ、インターシップは就職活動においてかなり重要ということも改めて感じました。思っていた以上に履歴書の完成時期が、12月ごろがいいと聞いて少しあせっています。夏休みはインターシップに行きたいと思っていますが、自分と同じ価値観の業種、業態が全くわかっていないので、できるだけ多くの業者に応募して企業研究を目標にして行きたいです。一番の目標は履歴書の自己PRと学生生活で頑張った事を考えることです。他の授業でも考える時間はあったのですが本当になにも考えつかなかったので、この長い夏休みにいろんな経験や苦労を重ねて自己PRや学生生活で頑張った事にかかるようなネタを作りたいと思います。